



Title	大阪外国語大学アジア太平洋論叢 第8号 序
Author(s)	赤木, 攻
Citation	大阪外国語大学アジア太平洋論叢. 1998, 8
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/99906
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

序

私たちはまさに「世紀と世紀の間の扉」の前に立ちつつある。「世紀」というのは単なる時間枠の一つにすぎないのではあるが、この「扉」のこちらと向こうでは人間の生活や意識などがずいぶん異なるのが常のようである。しかし、いかなる世紀が待ちかまえているのか、すりガラス製にちがいない「扉」をいくら眺めても向こうはなかなか見えない。

私たち「大阪外国語大学アジア太平洋研究会」は、ここ数年、「アジア太平洋圏文明の構築」をテーマに「扉」のこちら側の関係した動向に検討を加え、「扉」の向こうでの可能性を予測する作業をおこなってきた。つまり、リージョナリズムとしての「アジア太平洋圏」が21世紀には花を咲かせることが可能か否かを議論してきた。そのことは、おそらく、近代が生み出し20世紀にはほぼ全世界を駆け巡り人間の存在を根底で規定してきた「国民国家」、「ナショナリズム」、「消費文明」ないしは「工業化」などが、来る21世紀にはどのような展開をみせるかを見極めようとしたと言い直すことができるであろう。

それらは、まだまだ「議論」の途中であり、見極めは困難であるが、21世紀は人と人を結び価値と価値を交流する「言語」、より大きく言えば文化間に介在する「インターフェイス」がきわめて重要なポイントになるであろうという点では、ほぼ共通した理解を持ちつつある。私たちは、21世紀への「扉」をノックするにはそうした理解の上に立つ新しい教育研究システムの開発に努力する必要がある。

「アジア太平洋圏」に関する二つの特集を核とする『アジア太平洋論叢』第8号をお届けする。平成8年から9年度にかけて交付を受けた学内特定研究経費「情報面でのアジア太平洋圏の一体化の現状と展望」（代表：秋田茂）の報告書を兼ねている。今号も充実した論稿で埋めることができうれしい限りであるが、大方のご叱正を寄せていただければ幸甚である。

1998（平成10）年3月

大阪外国語大学アジア太平洋研究会

会 長 赤 木 攻